

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所事業 わらい		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの様子を、職員同士で情報共有することができており、チームワーク意識が強い。	毎日の申し送りで、子どもの様子を情報共有している。意識的に支援する目線を職員で共有出来るようにしている。職員同士で、子どもの声掛けなどを意識し現場でもお互いに声を掛け合うようにしている。	体調面等は日々保護者に伝えるようにしている。活動内容等をSNSツールを使って保護者にもっと伝えるように取り組む。
2	保護者から療育の悩みなどを聞き取り相談する取り組みが出来る。	利用時の子ども様子等から家庭での様子を聞き取り、相談を受けたりアドバイスを行っている。状況によっては、相談員や学校等関係機関と情報共有を行い連携を取る取り組みを行っている。	電話や送迎時の聞き取りいかに、事業所で相談しやすい環境を整える。
3	利用スタートから将来の自立を目標に取り組むようにしている。	子どもの成長に合わせて、一人で取り組めるように声掛けを行っている。自宅でもできる声掛け等の方法を保護者に伝えるようにしている。	自立に向けてのプログラムの工夫を行う。散歩を通して交通ルールを学び安全に歩く。路線バスの乗り方。安全確認をしながら一人で自宅に帰る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の子どもと活動する機会が少ない。	地元自治会との交流があまりない。	児童館などの情報を集め、利用児童にあった活動に参加するように取り組む。
2	事業所の子どもの様子を、参観日を設けるなどして伝えられていない。SNS等のツールを使って日々の活動の様子を伝えられていない。	参観日の促しや、保護者参加型の行事発信がない。ホームページの更新が少ない。	参観日や保護者参加型の行事計画を立て、保護者に発信する。日々の活動内容を写真に収めSNSツールで発信する。
3	子どもに合わせた活動を入れているが、低学年の子どもが多くなり全体的な活動内容の見直しが必要である。	低学年が多くなっている。	全体的な活動の見直しや、全体的なスピードを緩やかにする工夫が必要である。